

平成26年度
全国学力・学習状況調査

北見市の調査結果の概要

平成26年9月
北見市教育委員会



平成26年度全国学力・学習状況調査

北見市の結果等の概要

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

(ア) 小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語及び数学とする。

(イ) 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など（主として「知識」に関する問題）を中心とした出題
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容（主として「活用」に関する問題）を中心とした出題

(ウ) 出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。

イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

4 調査方式

悉皆調査（対象の全児童生徒）

5 調査期日

平成26年4月22日（火）

6 調査を実施した学校・児童生徒数

	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	1,080,663	1,017,965
北海道（公立）	42,951	41,769
北見市	1,021	1,015

7 平成26年度北見市教育委員会「全国学力・学習状況調査」の結果公表取扱要領

（平成26年9月3日 北見市教育委員会決定）

平成26年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領（平成25年11月29日付文部科学省決定）に基づき、北見市教育委員会における「全国学力・学習状況調査」の結果公表の取扱いを次のとおり定める。

(1) 北見市の小・中学校全体の結果概要については公表する。

教育委員会が保護者や地域住民に対して、説明責任を果たすことが重要であることから、北見市の小・中学校全体の結果概要について公表する。具体的な結果公表の内容としては、「小学校」「中学校」別に、次のような内容で提示する。

ア 平均正答数や平均正答率については、公表しない。

イ 全国や全道との比較ができる図などで結果の概要について示す。

ウ 児童生徒の学習成果などについて示す。

エ 北見市の学力における取組について示す。

オ その他「特徴的なこと」についてグラフや図等で示す。

(2) 北見市教育委員会として、個々の学校の調査結果については公表しない。

学校別の結果公表によって、序列化や過度な競争が生じることが考えられることから、北見市教育委員会として、個々の学校の結果公表は行わない。

(3) 「全国学力・学習状況調査」の結果公表取扱については、毎年度決定する。

平成27年度以降の「全国学力・学習状況調査」の結果公表の取扱いに関しては、毎年度、北見市教育委員会で審議し決定する。

Ⅱ 調査結果の概要

1 調査結果の概況

(1) 小学校

ア 各科目平均正答率について

小学校の全4科目中、国語Aは「全国と同様（下位）」、算数Aは「やや低い」、国語B・算数Bは「低い」という結果であった。

しかし、平成25年度と比較すると、すべての科目において、全国との差が縮小傾向にある。

イ 小学校の領域別平均正答率について

【国語A】：「話すこと・聞くこと」が「やや低く」、「書くこと」が「低い」、「読むこと」と「伝統的な言語文化」については「全国と同様（下位）」という結果であった。

【国語B】：「伝統的な言語文化」については、「やや低い」という結果で、それ以外の領域は「低い」という結果であった。

【算数A】：すべての領域で「やや低い」という結果であった。

【算数B】：すべての領域で「低い」という結果であった。

(2) 中学校

ア 各科目平均正答率について

中学校は国語A・数学Aは「全国と同様」、国語B・数学Bは「全国と同様（下位）」という結果であった。

イ 中学校の領域別平均正答率について

【国語A】：「伝統的な言語文化」については、「全国と同様」という結果で、それ以外の領域は「全国と同様（下位）」という結果であった。

【国語B】：「読むこと」については「全国と同様（下位）」、「書くこと」については「やや低い」、「伝統的な言語文化」については、「低い」という結果であった。

【数学A】：「数と式」・「資料の活用」については、「全国と同様」、「関数」・「図形」については「全国と同様（下位）」であった。特に「資料の活用」については、全国平均を上回っている。

【数学B】：「資料の活用」については「やや低い」が、それ以外は、「全国と同様（下位）」という結果であった。

2 小学校の状況 ◎高い/やや高い ○同様/同様(上・下位) ●やや低い ▼低い

(1) 小学校の平均正答率(全国・全道との比較)

小学校		国語A		国語B		算数A		算数B	
		全国	全道	全国	全道	全国	全道	全国	全道
		72.9	71.8	55.5	52.9	78.1	75.8	58.2	55.2
高い	+5~								
やや高い	+3~+5								
同様(上位)	+1~+3								
同様	-1~+1								
同様(下位)	-1~-3	○	○				○		
やや低い	-3~-5				●	●		●	
低い	-5~			▼				▼	

(2) 国語の領域別(全国との比較)

小学校		話すこと 聞くこと		書くこと		読むこと		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
		国語A	国語B	国語A	国語B	国語A	国語B	国語A	国語B
		72.4	51.2	72.2	34.4	68.5	57.3	73.7	69.8
高い	+5~								
やや高い	+3~+5								
同様(上位)	+1~+3								
同様	-1~+1								
同様(下位)	-1~-3					○		○	
やや低い	-3~-5	●						●	
低い	-5~		▼	▼	▼		▼		

(3) 算数の領域別(全国との比較)

小学校		数と計算		量と測定		図形		数量関係	
		算数A	算数B	算数A	算数B	算数A	算数B	算数A	算数B
		81.8	61.3	74.8	56.5	71.8	65.7	81.3	56.2
高い	+5~								
やや高い	+3~+5								
同様(上位)	+1~+3								
同様	-1~+1								
同様(下位)	-1~-3								
やや低い	-3~-5	●		●		●		●	
低い	-5~		▼		▼		▼	▼	

3 中学校の状況 ◎高い/やや高い ○同様/同様(上・下位) ●やや低い ▼低い

(1) 中学校の平均正答率(全国・全道との比較)

中学校		国語A		国語B		数学A		数学B	
		全国	全道	全国	全道	全国	全道	全国	全道
		79.4	79.4	51.0	49.9	67.4	66.0	59.8	59.4
高い	+5~								
やや高い	+3~+5								
同様(上位)	+1~+3								
同様	-1~+1	○	○		○	○	○		
同様(下位)	-1~-3			○				○	○
やや低い	-3~-5								
低い	-5~								

(2) 国語の領域別(全国との比較)

中学校		話すこと 聞くこと		書くこと		読むこと		伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	
		国語A	国語B	国語A	国語B	国語A	国語B	国語A	国語B
		72.3		83.4	41.0	82.9	49.2	78.7	58.8
高い	+5~								
やや高い	+3~+5								
同様(上位)	+1~+3								
同様	-1~+1							○	
同様(下位)	-1~-3	○		○		○	○		
やや低い	-3~-5				●				
低い	-5~								▼

(3) 数学の領域別(全国との比較)

中学校		数と式		図形		関数		資料の活用	
		数学A	数学B	数学A	数学B	数学A	数学B	数学A	数学B
		77.4	56.9	66.4	58.6	58.0	64.4	59.1	55.9
高い	+5~								
やや高い	+3~+5								
同様(上位)	+1~+3								
同様	-1~+1	○	○					○	
同様(下位)	-1~-3			○	○	○	○		
やや低い	-3~-5								●
低い	-5~								

4 各教科の結果の概要 (◇…多くの児童生徒ができていない内容 ◆…課題が見られる内容)

(1) 小学校

【国語A・B】

知識・技能の定着及び活用する力に課題がある。特に「書くこと」に関して課題が大きく書く能力の育成を一層重視することが大切である。

- ◇新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える
- ◆情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する
- ◆複数の事柄を並列の関係で書く「～たり、…たり」
- ◆立場を明確にして、質問や意見を書く
- ◆分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く

【算数A・B】

知識・技能の定着及び活用する力に課題がある。特に、「数量関係」に関して課題が大きく、数学的な思考力・表現力等の育成を一層重視することが大切である。

- ◇繰り上がりのある加法の計算をすることができる
- ◇被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる (※ 903×6)
- ◆示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる
- ◆示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる

(2) 中学校

【国語A・B】

基本的な知識・技能の定着は概ね良好である。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に課題が見られた。言語についての知識・理解・技能及び書く能力の育成を一層重視することが大切である。

- ◇登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する
- ◆資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く
- ◆複数の資料を比較して読み、要旨を捉える
- ◆文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く

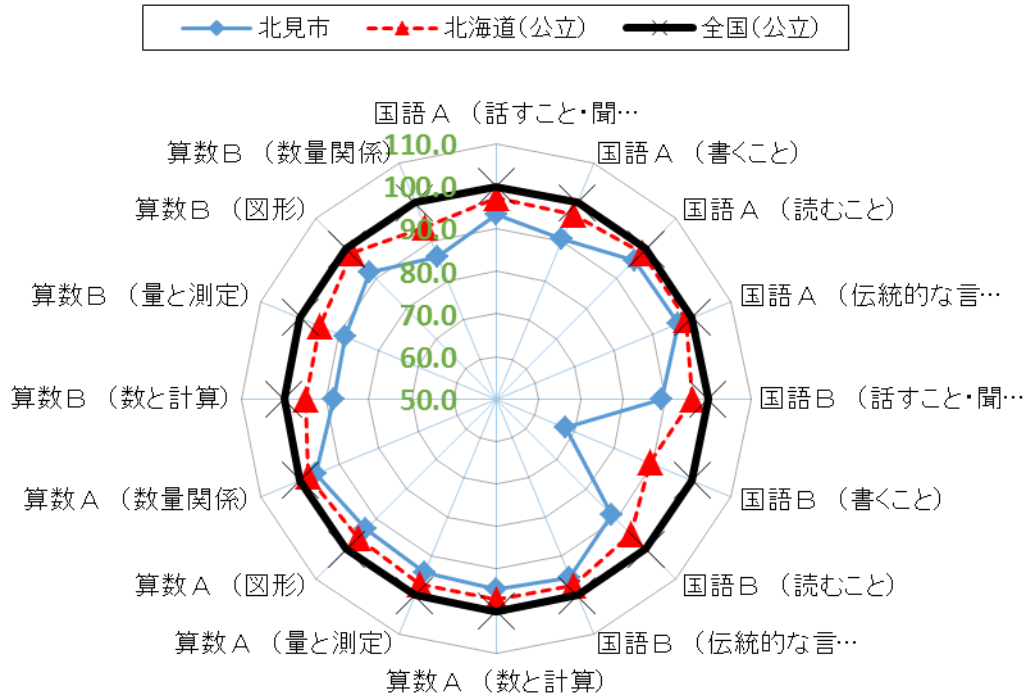
【数学A・B】

基本的な知識・技能の定着は概ね良好である。「資料の活用」に一部課題が見られた。今後も一層、数学的な思考力・表現力等の育成を重視することが大切である。

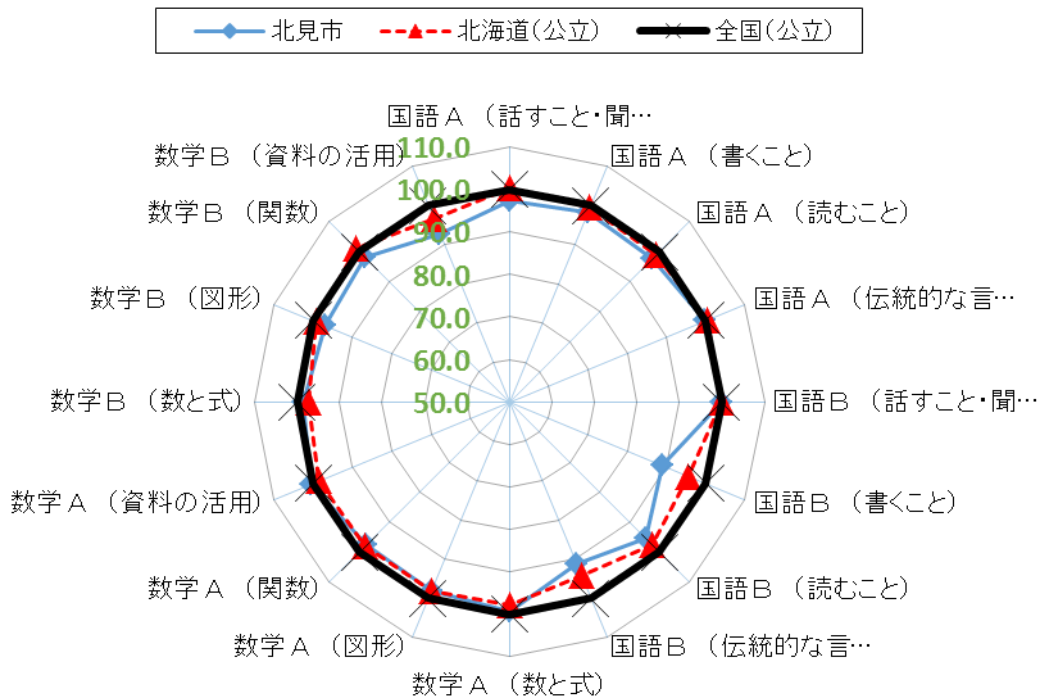
- ◇単項式どうしの除法の計算ができる
- ◇対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる
- ◆不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる
- ◆グラフの特徴を解釈し、問題を解決する方法を説明することができる

5 レーダーチャート

【小学校】



【中学校】



Ⅲ 児童生徒質問紙調査の結果概要

1 児童生徒の学習環境・生活環境に関する調査結果（抜粋）

※下段赤字は全国

質 問 事 項		小学校	中学校
1	朝食を毎日食べている	94.1%	93.1%
		96.0%	93.5%
2	自分には、よいところがあると思う	67.3%	70.0%
		76.1%	67.1%
3	友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意	46.6%	50.8%
		49.5%	48.6%
4	将来の夢や目標を持っていますか	83.7%	75.1%
		86.7%	71.4%
5	テレビ・DVD等の視聴時間が一日3時間以上	43.0%	35.1%
		38.0%	31.5%
6	テレビゲーム（スマホ・携帯含）の時間が一日2時間以上	40.9%	41.6%
		30.3%	35.4%
7	インターネット、メール等の時間が一日2時間以上	12.7%	35.5%
		8.7%	32.7%
8	授業時間以外の、1日当たりの勉強時間が、2時間以上	15.5%	37.1%
		25.8%	35.1%
9	授業時間以外の、1日当たりの勉強時間が、30分未満	21.7%	20.6%
		12.7%	14.7%
10	読書は好きである	65.7%	65.4%
		73.0%	69.4%

2 質問紙調査の結果の考察

学力には基本的な生活習慣と家庭での学習習慣、そして授業改善が大きく影響しており学力向上には基本的な生活習慣と学習習慣の確立が重要であります。

学校では、児童生徒に、自分の考えを発表する機会を与えたり、読書に関心を持たせたり、問題の解決法を深く考えさせるといった、学習活動の継続が望まれます。

家庭での、テレビやインターネット、スマートフォン、携帯等の使用時間が長いことは、北見市の小中学生に見られる顕著な例です。また、家庭学習の習慣化が一層望まれます。

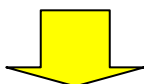
今後も学校と保護者が連携を図りながら、児童生徒の家庭での生活・学習習慣の形成を支援していく取組が必要であると考えられます。

Ⅳ 学力向上の取組

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて、改善の方策として、次のような取組を継続して進めます。児童生徒の学力向上を側面から支える要素として、これらの取組を各学校で積極的に推進していきます。

- ◎授業のいっそうの改善と言語活動の充実
- ◎基本的事項の徹底を図る授業の充実
- ◎読書活動の推進
- ◎家庭での学習方法の確立と習慣化の啓発
- ◎携帯、スマートフォン使用における、家庭のルール作りの啓発

【北見市教育委員会としての取組】



○教員の授業力向上を目指した研修会の充実
「北見市研究指定校」の推進、北見市教育委員会独自の各種研修会（若手教員研修会・長期休業中研修会等）の一層の充実を図り、授業力の向上を図ります。

○学力向上推進委員会の推進
学力向上に向け、具体的な取組を進めていく必要があることから、校長会、教頭会、北見市教育委員会が一体となった「学力向上推進委員会」を立ち上げました。
具体的な取組を「家庭学習の手引きの作成・配布」「国語・算数の学習シートの作成」「教師向け指導資料の作成」「実践事例の共有化」にしぼり、組織体制を確立し、実効性のある取組を各学校に提案します。

○個に応じた指導を充実するための人的配置
少人数指導やチームティーチングを行い、個に応じた指導の一層の充実を図るために、教育活動支援講師を小・中学校に配置します。

全国学力・学習状況調査は平成19年から実施され、今回で8回目となります。各学校は、本調査の結果を十分に分析することにより、現状と課題を明確にし、教育の質を高めるための改善を確実に実行していきます。

子どもたちの確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むためには、学校と家庭・地域との連携が重要です。子どもたちの「生きる力」を育むため、今後とも市民の皆さまの学校教育・家庭教育へのご理解とご支援・ご協力を引き続き、お願い申し上げます。

平成26年9月 北見市教育委員会